

| | | | | | | | |
|------|---|------|-----------------|------|---|-----------|----|
| 授業科目 | *薬理学 | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
| 単位 | 2 | 履修 | 必修 | 開講年次 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 担当教員 | 東 泉 | | | | | | |
| 授業概要 | 薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうのかを学ぶ学問である。総論では、薬物の作用の仕方（作用機序）、薬物と有害作用、薬物の効果に影響する要因などについて学ぶ。各論では、代表的な薬について、その薬物がその疾患に対しなぜ効くのか、またどのような有害作用があるのかを理解し、医薬品の適正使用のための知識を身につける。 | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | 授業方法 | Google Form を使用 | | | | |

学生が達成すべき行動目標

| | |
|--------|---|
| 標準的レベル | ① 薬物の作用点（受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）を説明できる。 ② 薬理作用を規定する要因や薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。 ③ 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 ④ 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。 ⑤ 薬物の投与方法の違いによる特徴を説明できる。 ⑥ 小児期、周産期、老年期、臓器障害時における薬物投与の注意点を説明できる。 ⑦ 薬害、薬剤の職業性ばく露について概説できる。 ⑧ 薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。 ⑨ 薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。 ⑩ 主な治療薬（末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬、循環器系作用薬、血液作用薬、呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、内分泌・代謝系作用薬、抗感染症薬、消毒薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、抗腫瘍薬、医療用麻薬、麻酔薬）の薬理作用、作用機序を説明できる。 |
| 理想的レベル | 標準的レベルを習得したうえで、総論の内容を充分理解し、説明できる。各論では、代表的な治療薬について看護師として必要な知識を充分身に付け、説明ができる。 |

評価方法・評価割合

| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
|------------------|----------|----|
| 試験 | 80% | |
| 小テスト | 20% | |
| レポート | 0 | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 0 | |
| レポート外の提出物 | 0 | |
| その他 | 0 | |

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|--------|----------|
| DP1 | ○ | DP2 | ○ | DP3 | - | DP4 | - | DP5 | - | ナンバリング | NU11110J |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|--------|----------|

学習課題（予習・復習）

1回の目安時間（時間）

初回に配布する予定表で学習内容を確認し、該当箇所の予習・復習をする

4

授業計画

| | |
|-----|---|
| 第1回 | テーマ：薬理学総論 1 薬理学の概説をする。 薬物の作用機序と薬物受容体について解説する。 |
|-----|---|

| | |
|-----------------------|--|
| 第 2 回 | テーマ：薬理学総論 2 薬物の生体内運命について解説する。 |
| 第 3 回 | テーマ：薬理学総論 3 薬効に影響を与える要因について解説する。 |
| 第 4 回 | テーマ：薬理学総論 4 薬物の有害作用、相互作用について学習する。 |
| 第 5 回 | テーマ：薬理学総論 5 医薬品に関する法律や医薬品の適切な取り扱いについて解説する。 |
| 第 6 回 | テーマ：末梢神経作用薬 自律神経系（交感神経、副交感神経）に作用する薬物について解説する。 |
| 第 7 回 | テーマ：中枢神経作用薬 1 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬について解説する。 |
| 第 8 回 | テーマ：中枢神経作用薬 2 抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗うつ薬、抗精神病薬、麻薬性鎮痛薬について解説する。 |
| 第 9 回 | テーマ：循環器作用薬 高血圧症、不整脈、心不全、狭心症の治療薬について解説する。 |
| 第 10 回 | テーマ：血液系作用薬 抗血液凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬、止血薬、貧血治療薬などについて解説する。 |
| 第 11 回 | テーマ：抗アレルギー薬、抗炎症薬 抗アレルギー薬、抗炎症薬について解説する。 |
| 第 12 回 | テーマ：呼吸器系・消化器系作用薬 気管支喘息、消化性潰瘍の治療薬について解説する。 |
| 第 13 回 | テーマ：内分泌系作用薬 糖尿病治療薬について解説する。 |
| 第 14 回 | テーマ：抗感染症薬 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬について解説する。 |
| 第 15 回 | テーマ：抗がん薬、免疫治療薬、総括 抗悪性腫瘍薬、免疫抑制薬について解説する。 |
| テキスト | 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 第 15 版 (吉岡 充弘 他著、医学書院) |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 参考図書 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 第 2 版 (医学書院) 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 (メディカ出版) イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂 3 版 (南山堂) |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小テストの正答は公開する。詳細は講義中に説明する。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | 生化学、生理学、とくに病態生理学について復習していると、講義が理解しやすい。 医薬品に関する様々な情報に関心を持つよう心掛ける。 |